次期学習指導要領 教科別まとめ　高校 No.03

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

数学

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる

高校版





10秒でいうと　数学Ⅰに「社会を読み解く数学」等を加え最大8新単位程度に。数A・B・Cは1科目に統合する案

やさしく言うと

高校の数学は、科目の組み立てが変わる案です。必履修の数学Ⅰに「数学ガイダンス」と「社会を読み解く数学」を新しく入れる方向です。そのため数学Ⅰは最大8新単位程度とし、数学Ⅱは6新単位に減らす案です。数学A・B・Cは一つの新しい選択科目にまとめる案です。新科目の名前は「数理活用」などが例としてあげられ、まだ決まっていません。

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 数学のポイント　4つ
2 主な変更点　9項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　7項目
4 高校の科目と単位
5 授業時数
6 生成AI・ICTとの付き合い方　5項目
7 今からできる準備チェックリスト　8項目
8 次期を先取りする授業アイデア　1本
9 指導案（試案）　1本
10 現行の学習指導要領・解説（高校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

算数・数学の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で教科の目標と「見方・考え方」の言葉をそろえ、学習内容を共通の6つの「分野」で整理する方向です。批判的に考える力や、証明などの論理的な学習を重視するとしています。
2. 中学校と高校に、数学の全体像や社会・仕事とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」を新しく設ける方向。高校では必履修の数学Ⅰに「社会を読み解く数学」を加え、数学A・B・Cを1つの新科目にまとめる案です。
3. 割合・比・分数のつまずき対策、教科書内容の精選、学年をこえた学び直しなど、だれもが「わかる」「できる」と感じられるための工夫を進めるとしています。

※数学A・B・Cを統合した新選択科目の名称は「数理活用（仮称）」などの案で検討中。「数学ガイダンス」は仮称。いずれも2026年10月の審議まとめ段階の案で、今後変わり得る。

1 数学のポイント

4つ

1 数学Ⅰに「社会を読み解く数学」

数学Ⅰだけで卒業する生徒にも大切な内容として、「社会を読み解く数学」を新設する案です。実社会の場面をもとに、場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列の基礎を学びます。数学ガイダンスも数学Ⅰに置き、単位数は最大8新単位程度とする案です。 P80 P81 P167 P172

授業では、たとえば スマートフォンの料金プランやくじの期待値など、身近な場面を数理モデルで比べる授業。そんな学びが方向に沿う例として考えられます。

2 数学A・B・Cを一つの新科目に

数学A・B・Cの区分をなくし、内容を選べる一つの新しい選択科目にまとめる案です（2〜12新単位）。内容は場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列、幾何ベクトル、複素数と複素数平面に整理します。名前は「数理活用」などが例とされています。 P80 P167 P172

授業では、たとえば 文系志望の生徒にも統計と行列を選ばせるなど、進路に合わせて内容を組み合わせた履修モデルを校内で試しに作る。そんな準備が考えられます。

3 数学Ⅱは減らして総量はそのまま

数学Ⅰが増える分、数学全体の学習量が増えないよう調整する方向です。選択科目の内容を他の科目へ移したり、しぼったりします。数学Ⅱは6新単位（今の3単位分）に減らす案です。数学Ⅰ→Ⅱ→Ⅲの順序は今どおり維持するとされています。 P80 P81 P171 P172

授業では、たとえば 数学Ⅱの年間計画で、他科目へ移る可能性のある単元に印をつけ、時間配分を見直す準備をしておく。そんな対応が一例です。

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜数学（高校）教科別まとめ｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

4 外部試験で数学Ⅰの免除も

信頼できる外部試験で、数学Ⅰより上の級（数学Ⅱ・B相当など）に合格した生徒が対象です。学校などの判断で数学Ⅰの履修を免除できる方向です。代わりに発展的な学校設定科目などを学びます。入試対策の早修に濫用するのは極めて不適切とされています。 P175 P176

授業では、たとえば 才能のある生徒のために、数学Ⅰの時間に発展的な課題研究を行う学校設定科目の案を考えておく。そんな検討が考えられます。

2 主な変更点

9項目

1. 高 高校の数学A・B・Cを1つの新科目に統合する案

これまで別々の科目（教科書も評価も別）だった数学A・B・Cを、1つの新しい選択科目にまとめる案です。中身は「場合の数と確率」「統計的な推測」「行列」「数列」「幾何ベクトル」「複素数と複素数平面」の6つに整理し、生徒が進路や興味に合わせて必要な内容を選びやすくなります。科目名は「数理活用」などの案が検討中で、表では「数理活用（仮称）」2〜12新単位とされています。学校単独で開設が難しい場合は、県内の複数校で遠隔授業を分担する工夫も例示されています。 P166 P171 P172 P80 P82

2. 高 数学Ⅰに「社会を読み解く数学」を新設する案、単位数は数学Ⅰ増・数学Ⅱ減

全員が学ぶ数学Ⅰに、実社会の場面をもとに「場合の数と確率」「統計的な推測」「行列」「数列」の基礎を学ぶ「社会を読み解く数学」を新設する案です（例：数理モデル、等比数列と漸化式、確率と期待値など）。これと「数学ガイダンス」の追加で、数学Ⅰは現行3単位から最大8新単位程度に増える見込みです。数学全体の量が増えないよう、数学Ⅱ（現4単位）は6新単位（3単位）に減らし、内容の移行や精選を行う案です。新科目で4つの内容をすべて選んで学ぶなど条件を満たす場合は、数学Ⅰの相当分を減らせる案です。 P166 P172 P81 P82

3. 中 高 中学校・高校に「数学ガイダンス」を新設する方向

学習内容どうしのつながりや、数学と社会・仕事の関係が見えにくいという課題から、数学全体の「見取り図」と社会・職業とのつながりを学ぶ「数学ガイダンス」を中学校と高校（数学Ⅰの中）に新しく設ける方向です。中学校では小学校からの接続や数学が日常生活・社会を支えること、高校では中学校からの接続や数学が職業生活を支えることなどを扱うとしています。総授業時数を増やさないことが前提で、入学時の「数学開き」の実践も参考にし、体験的な活動で楽しさや好奇心を引き出す内容を検討します。 P167 P171

4. 証明・論理的な説明の学習を小中高で強化（「論証」分野）

変化が激しい社会では、筋道立てて批判的に考える力（クリティカル・シンキング）が欠かせないとして、中学・高校で数学的推論や証明に関する学習を充実する方向です。小学校でも、中・高の証明につながる「論理的に説明する活動」を各単元で充実するとしています。資料編では、これまで「数と式」「図形」に散らばっていた内容を「論証」という1つの分野として独立させると説明されています。 P164 P165 P167 P171

5. 目標・見方・考え方を小中高で統一し、学習内容を6つの「分野」で整理

小・中・高で教科の目標の言葉をそろえ、「見方・考え方」も統一する方向です。新しい見方・考え方は「事象や言説を数理の視点から捉え、論理的、統合的・発展的、批判的に考察すること」で、ニュースや意見などの「言説」と「批判的」（建設的な意味で）が加わる案です。小学校の算数から高校の数学Ⅰまでの内容を「数と式」「図形」「変化と関係」「データと確からしさ」「論証」「社会を読み解く数学」の6分野で整理し、各分野を1〜2の「区分」に分けて「統合的な理解・総合的な発揮」を示すとしています。教科名の統一は引き続き検討ですが、算数の英語表記は「Arithmetic」から「Mathematics」に改める案です。 P166 P167 P168 P169 P170

6. 学年の区切りをこえた柔軟な指導と学び直し（調整授業時数の活用例も）

学年区分は示しつつ、学校の判断で指導時期を前倒し・後ろ倒しできるようにし、まとまった時間をつくって定着に課題のある単元の学び直しや、興味を引き出す探究的な学習に使えるようにする方向です。新しい調整授業時数の「裁量的な時間」では、下の学年の未習得事項を学び直すプログラムや、算数の単元構想の研究・研修などが例に挙がっています。ただし系統性が強い教科なので、安易な時数の調整で定着に影響が出ないよう注意が必要とされています。高校では科目の組み替えの仕組みで、いわゆる「理転」の壁を下げる効果も期待されています。 P174 P175

7. 定着を支える指導の工夫（認知心理学の知見・帰納と演繹のバランス・ICT）

基礎的な知識・技能を確実に身につけるため、分散学習・検索練習など認知心理学や学習科学の知見をふまえた指導や、学習前の「レディネス」（既習事項の習得状況）の確認が有効とされています。具体的な事象から考えさせる帰納的な指導と、先に教師が原理を教える演繹的な指導を、子どもの実態に合わせてバランスよく使い分けるとしています。「間違ってもよい」という心理的安全性も重視されます。1人1台端末やクラウドを前提とし、AIドリルは質や教師の指導などの条件のもとで計画的に使えば効果的とされています。 P164 P174 P177

8. 内容の精選と、教科書で「必ず扱う内容」と「必要に応じて扱う内容」の区別

「統合的な理解・総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、欠かせない内容でないものは精選するとしています。教科書を全部網羅して教える傾向があるとの指摘から、教科書の各内容が必ず扱うべきものか、必要に応じて扱うものかの区別（グラデーション）が分かるよう、教師用指導書での工夫を教科書会社に求めることも検討されています。資料編では、演習問題を基礎・習熟・発展に分ける、コラムなどには時数を配当しないといった例が挙がっています。 P173

9. 高 外部試験の上位級合格で数学Ⅰの履修免除を可能にする方向

高校の単位制の柔軟化の一つとして、まず外国語と数学の必履修科目を対象に、信頼性のある外部試験で内容を十分身につけていると判断できる生徒は、一定の要件のもとで履修を免除できるようにする方向です。数学では、対象の級は数学Ⅰ相当より上（数学II・B相当など）とする案で、対象試験は解説で示します。免除した時間には、数学の発展的な学習を行う学校設定科目などを履修することが考えられます。大学入試のための早修に使うのは「極めて不適切」とされています。 P175 P176

3 現行と次期の比較（新旧対照）

7項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
高校数学の選択科目	数学A（図形の性質、場合の数と確率、数学と人間の活動）、数学B（数列、統計的な推測、数学と社会生活）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面、数学的な表現の工夫）の3科目（各2単位）。	3科目を**1つの新科目に統合**する案で、内容を「場合の数と確率」「統計的な推測」「**行列**」「数列」「幾何ベクトル」「複素数と複素数平面」の6つに整理。名称は「**数理活用（仮称）**」などの案があり、2〜12新単位。 P171 P172 P80 P82
数学Ⅰ（必履修）の内容と単位数	数と式、図形と計量、二次関数、データの分析。3単位。	これに「**数学ガイダンス**」と「**社会を読み解く数学**」を加える案。単位数は**最大8新単位程度**（現行の1単位分ほど増）。 P171 P172 P81 P82
数学Ⅱの単位数	4単位（数学科で唯一の4単位科目）。	内容の他科目への移行や**精選**を行い、**6新単位（3単位）**に減らす案。 P172 P81 P82
学習内容の区分の仕方	小学校算数・中学校数学は「領域」、高校数学は「項目」という名前で区分。	小学校算数〜高校数学Ⅰまでを、共通の**6つの「分野」**（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、**論証**、**社会を読み解く数学**）で整理し、さらに「区分」に分ける方向。 P167 P170
中学・高校の「数学ガイダンス」		数学全体の**見取り図**と、数学と**社会・職業との関係**を学ぶ内容を中学校と高校（数学Ⅰ）に**新設**する方向。総授業時数は増やさないことが前提。 P167 P171
数学的活動の位置付け	これまでの学習指導要領で、算数科・数学科の学習過程として位置付けられてきた。	「数学的活動」を個々の学習内容として規定するのではなく、**教科全体を通じて**充実に取り組む旨を規定すべきとされた。 P178

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
評価規準づくり	各学校が、内容のまとまりごとの評価規準、単元の目標、単元の評価規準を作成。	「内容のまとまりごとの評価規準例」は**国が示し**、学校での**作成は不要**にする方向。算数・数学の「内容のまとまり」は**「区分」ごと・学年ごと**の「内容」とする方向。単元の目標がそのまま単元の評価規準になる考え方。P179

4 高校の科目と単位

必履修の数学Ⅰ（「数学ガイダンス」「社会を読み解く数学」を新設する案）、数学Ⅱ・数学Ⅲ（数学Ⅰ→Ⅱ→Ⅲの履修順序は維持）に加え、現行の数学A・B・Cを統合した1つの新選択科目を設ける案（名称は「数理活用（仮称）」などの案。内容は場合の数と確率、統計的な推測、行列、数列、幾何ベクトル、複素数と複素数平面）。（P171-172、P80、P82）

5 授業時数

高校：数学Ⅰは現行3単位→最大8新単位程度、数学Ⅱは現行4単位→6新単位（3単位）、数学Ⅲは6新単位、新選択科目は2～12新単位（現行は数学A・B・C各2単位）。1新単位は17コマ。「社会を読み解く数学」相当を新科目で学ぶ場合は数学Ⅰから減単可能（P81、P82）。小・中学校の算数・数学の具体的な時数は算数・数学の節には書かれていない（総論では、35コマを超える教科等から一律3-4%程度を「広く薄く」減じる考え方を示し、実数は今後示すとしている：P79）。

6 生成AI・ICTとの付き合い方

5項目

1. 生成AIの時代にこそ数学を学ぶ意味がある
数学の問題解決に生成AIが使われる場面が増え、数学を学ぶ意義を問い直す声もあります。しかし、生成AIで処理した結果が妥当かを確かめるにも、生成AIの仕組みを理解するにも、数学の素養は欠かせません。生成AIに振り回されない批判的思考力のためにも数学的な思考力が必要とされています。P166

2. 高校：AIを支える数学（行列・微積・確率・統計）を重視
AI技術やデータサイエンスの仕組みを理解し適切に使えるよう、その土台である線型代数学・解析学・確率論・統計学の基礎（行列、微分・積分、確率、統計）を重視するとされています。数学Ⅰに、行列・統計の基礎など、AIやデータサイエンスが進む社会で求められる素養を学ぶ「社会を読み解く数学」を新設する方向です。P80 P167 P171 資料編(1)P221

3. クリティカル・シンキングの強化
AI技術やデータサイエンスが急速に進む変化の激しい社会では、論理的・批判的に考え判断する力（クリティカル・シンキング）が一層重要なので、数学的推論や証明などの学習を中・高で充実させます。P167 P171

4. AIドリルの使い方の条件
AIドリルは、①教材として一定の質がある、②教師の適切な指導助言がある、③子供が自分で学びを調整しながら使える、の3つが前提です。そのうえで計画的に使えば、知識を効率よく身に付けられるとされています。家庭学習が難しい子供にAIドリルを配る自治体の例もあります。P176 P177

5. ICT活用の例と、AIの扱いの機動的な見直し
効果的なICT活用例として、AIによる自動採点やデジタル教材・AIドリルの活用などが挙がり、国が改訂を待たず広く知らせることが重要とされています。学習科学をふまえたAI学習アプリなど新しい動きにも注目し、算数・数学でのAIの扱いは技術の発展に合わせて機動的に見直すとされています。P177

7 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 単元に入る前に、その単元に必要な既習事項（レディネス）を5分ほどの小テストで確かめ、つまずきのある子供への手立てを用意してから始めます。 P164 P165 P174
- [ ] 今すぐ 授業の冒頭や宿題に、前の単元の問題を少し混ぜて思い出させる時間（分散学習・検索練習）を入れ、全員にまったく同じ問題だけを出すやり方を見直します。 P164 P174
- [ ] 今すぐ 割合や速さで「みはじ」「くもわ」を使っている場合は、数直線や図で意味を説明させる時間を必ず入れ、暗記だけで終わらせないようにします。 P164 P171
- [ ] 告示まで 小中の先生で、6つの「分野」（数と式、図形、変化と関係、データと確からしさ、論証、社会を読み解く数学）をもとに単元の系統表を作り、学校段階のつながりを確かめます。 P167 P170 P175
- [ ] 告示まで 中学校・高校の入学時や学年初めの「数学開き」を、数学の全体像（見取り図）や、数学が日常生活・社会・職業を支えることを体験的に学ぶ時間として作り直し、「数学ガイダンス」を先取りします。 P167 P171
- [ ] 告示まで 現行学習指導要領に示された内容を確実に扱うことを前提に、教科書内の練習・補充・発展的な内容の扱い方や時数配分を教科会で点検します。次期課程での「必ず扱う内容／必要に応じて扱う内容」の区分は、告示・解説や教師用指導書が示された後に確認します。 P173
- [ ] 先行実施まで 高校では、数学A・B・Cを統合する新科目と数学Ⅰの「社会を読み解く数学」を見越し、確率と期待値・数列と漸化式・行列・統計的な推測を実社会の場面で扱う教材を集め、進路に応じた履修パターンや単位配分の案を検討します。 P167 P171 P172
- [ ] 全面実施まで AIドリルを使う場合は、①教材として一定の質がある ②教師が適切に指導助言する ③子供が自分で学びを調整しながら使う、の3つを満たす使い方を校内で決め、計画的に使います。 P177

8 次期を先取りする授業アイデア

1本

高1（数学 I「データの分析」） 1単位時間（50分）

20人中15人が「おいしい」は偶然？

コイン投げのシミュレーションで、主張を「偶然」と比べて判断する考え方を体験します。

手順・ワークシート

ねらい

「新商品の方がおいしいと感じる人が多い」という主張について、「味に差はない（半々）」と仮定したときに結果がどのくらい起こりやすいかをシミュレーションで調べ、判断の基準を示して主張を受け入れるかどうかを説明できる。

流れ

- **5分** 場面カードを示し、「15人なら、新しい方がおいしいと言っていい？」と問います。「味に差がなくても、たまたま15人になることはある？」という問いを立てます。
- **5分** 「味に差がないなら、一人一人の答えはコインの表裏と同じ」と仮定することを確かめます（仮説を立てる）。
- **10分** ペアで実際に硬貨を20回投げ、表の回数を記録します。クラス全体の結果を集めて度数分布表をつくり、「15回以上はどのくらいあったか」を見ます。
- **12分** 表計算のシミュレーション（20回×1000セット）を全員で動かし、表が15回以上になった割合を求めます（およそ2%前後になります）。同じように、14回以上になった割合も求めます（およそ6%前後になります）。
- **12分** 班で「15人なら」「14人なら」それぞれ主張を受け入れるかを話し合います。どのくらい珍しければ「偶然とは考えにくい」と判断するか（基準、たとえば5%）を前もって決めておく必要があること、基準によって結論が変わりうることを全体で整理します。
- **6分** 振り返りとして、広告やニュースの「〇人中〇人が～」という表現を見たとき、何を確かめるか（人数、選び方、偶然と比べたか）を書きます。

評価

【知識・技能】仮説を立て、シミュレーションの結果から起こりやすさを求めているかを見取ります。【思考・判断・表現】判断の基準をはっきりさせたうえで、主張を受け入れるかどうかを根拠をもって説明しているかを見ます。「15人でも絶対においしいとは言えない」「基準によって結論が変わる」ことに触れているかも確かめます。

9 指導案（試案）

1本

高等学校第1学年　数学Ⅰ　全6時間（本時は第4時）

データで主張を確かめる ～相関と仮説検定の考え方～

中央教育審議会教育課程部会の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、見方・考え方の対象を「事象や言説」に広げ、論理的、統合的・発展的に加えて「批判的に考察すること」を位置付ける案と、高等学校で確率・統計などの基礎に関する学習を重視する方向を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示前であ…

指導案の全文

本時のねらい

「好みに差がない」と仮定したときに結果が起こる程度を実験とシミュレーションで調べ、それを基に主張の妥当性を判断するとともに、その判断で言えることと言えないことを説明することができる。

本時の流れ

- **5分** 導入 購買の新商品の宣伝（架空）「新メロンパン、20人中15人が『前のよりおいしい』と回答！みんな新しいほうが好き」を提示し、この主張を信じてよいかを直感で答える（挙手）。
- **8分** 展開 【仮定を置く】「本当は好みに差がない（どちらを選ぶ確率も2分の1）」と仮定し、そのとき20人中15人以上が新しいほうを選ぶことがどのくらい起こるかを予想する。その確率が非常に小さければ、仮定が正しくなかったと考える、という仮説検定の考え方の流れを確認する。実験の前に、判断の目安（起こる割合が5%より小さければ、偶然とは考えにくいとする）をクラスで決めておく。
- **12分** 展開 【実験】4人班で、1人がコインを20回投げて表の回数を記録することを2セットずつ行う（表＝新しいほうを選ぶ、とみなす）。班の結果をクラウドの共有シートに入力し、クラス全体（約60セット）で表が15回以上だったセットの割合を求める。
- **10分** 展開 【シミュレーション】表計算ソフトで、1人の選択を =IF(RAND()<0.5,1,0) で表し、20人分を1行として1000行（1000セット）作る。各行の合計を求め、合計が15以上の行の数を数えて割合を求める。再計算を数回行い、割合がおよそ2%前後になることを確かめる。さらに「20人中13人以上」の場合の割合（およそ13%）も求めて比べる。
- **10分** 展開 【判断と吟味】実験の前に決めておいた「5%より小さければ、偶然とは考えにくい」という目安を基に、15人の場合と13人の場合の判断を書く。続けて班で、①この結果から言えること・言えないこと ②20人の選び方や質問の仕方など、調査の方法に問題はないか、を話し合い、宣伝の文を正確に言い直す。
- **5分** まとめ 振り返りシートに、本時の考え方の手順（仮定を置く→起こりやすさを調べる→判断する→言えることと言えないことを確かめる）を自分の言葉でまとめ、身の回りで同じように確かめてみたい主張を一つ書く。

PDF版：shidoan-ko1-sugaku1-kasetsu-kentei.pdf（ダウンロードコーナー）

10 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編**
https://www.mext.go.jp/content/20260115-mxt_kyoiku02-100002620_04.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る